

第1・2学年 図画工作科学習指導案

1年 10名 2年 7名

指導者 T1 安原 千絵

T2 三浦 美穂子

授業場 多目的室

1 題材名 つつがいっぱい ～やりたいことむげんだい～

「造形遊び A表現(1)ア、(2)ア、B鑑賞(1)ア [共通事項](1)ア、(1)イ」

2 題材設定の理由

本題材は、並べたり積んだりする行為から始めることで、身の回りにある筒状の芯材（以下、筒とする）の形や色などの造形的な面白さを感じ取りながら活動を工夫し発展させていく力を育てることをねらいとする造形遊びである。また、自分の活動に価値を見いだしたり、友達の活動の面白さや楽しさを感じ取ったりする力を育てることができると考える。ラップや粘着テープの芯など、日常生活の中で廃材として出るものや、地域の施設等で出た廃材である筒を扱う。並べ方や積み方は何通りもあり、材料をたくさん用意することで、単体ではできない新しい形を生み出すことができる。児童が、自分がやってみたいことを見付け、意欲的に活動することができる内容であるため、並べたり積んだりすることを何度も試すといった「つくり、つくりかえ、つくる」活動を繰り返すことを通して、自分の発想を広げたり、友達の活動から新しいよさや価値観を見付けたりすることができる題材であると考えた。

1・2年生の児童は、図画工作科の学習が好きで、ほとんどの児童が楽しく意欲的に取り組み、「ここをこんなふうにしたい」という思いをもって活動している姿も見られる。1学期に行った立体に表す題材「きょうりゅうがあらわれた」では、自分がイメージしたオリジナルの恐竜を、粘土を使って表した。粘土の塊からひねりだして形を変えながら、いろいろな向きから見て表し方を考えていた。また、自分の気持ちに合うように、恐竜の表情や、首や手足の傾きなどを考え、トゲや牙、舌を付けたり、頭に子供の恐竜を乗せたりするなど、思い思いの恐竜を表現することができた。さらに、「私も、体に模様を付けてみよう」と友達の活動から表現を広げる姿も見られた。また、造形遊びの題材「つくってわくわくカラフルいろみず」では、いろいろな色の色水をつくったり並べたりするなど、自分の思い付いた活動に取り組んだ。「さっきより薄い色ができた」「赤と青を混ぜたらどうなると思う？」などと友達と話したり、様々に試したりして、活動に没頭する姿が見られた。つくった色水を屋内外に並べる際には、ハート型や三角形に見えるよう意図をもって並べたり、色の濃さの違いに気付き、こだわって並べたりする姿が見られた。自分や友達の作品から、「光が当たるときれい」「友達と合体させてもおもしろい」などと感じ方を広げることができた児童もいた。そこで、今回は、身の回りにある筒をたくさん集め、そこからやってみたいことを思い付き、つくりだす喜びを味わわせたい。さらに、イメージを膨らませ、何度も試行錯誤しながら活動に没頭したり、友達と活動を見合ったりする中で、自分の見方や感じ方を広げることができるようになりたいと考えた。

指導に当たっては、児童がやってみたいことをいろいろと思い付くことができるように、形や長さ、太さなどが異なる様々な種類の筒を用意する。材料集めは、家庭や地域にも呼びかけた。切り口が斜めになるようにカットした筒も用意することで、それを生かした並べ方や積み方をする姿を期待したい。また、筒には白色や茶色があり、形などだけでなく、色に着目した活動を思い付く児童も出てくるだろう。さらに、筒が安定し、様々な並べ方や積み方を試すことができるように、活動場所を床がカーペットになっている多目的室とする。自由に活動ができる空間であるため、自然と対話が生まれることもねらいとしている。さらに、友達の活動を見ることで自分の活動が広がり、表現と鑑賞が一体的にできるのではないかと考える。活動が進まない児童には、教師と一緒に並べてみたり、友達の活動を見て回り並べ方や積み方などについて対話をしたりするなどして、自分のやってみたいことを思い付いて活動

できるように支援していきたい。本時の最後には、並べたり積んだりした活動の成果を全員で鑑賞する時間を設ける。自分や友達の活動の面白さや楽しさを感じたり、友達の考えを聞いたりすることで、形や色、表し方などの工夫について、自分の見方や感じ方を広げることに繋げたい。そして、身の回りのものからつくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造していこうとする態度を養いたい。

3 題材の目標

(1)・身の回りにある筒を並べたり積んだりするときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色、触った感じなどに気付く。

- ・身の回りにある筒に十分に慣れるとともに、並べたり積んだりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくる。

(知識及び技能)

(2)・身の回りにある筒の形や色、触った感じなどを基に造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考える。

- ・身の回りの筒やつくったものなどの造形的な面白さや楽しさ、造形的な活動、つくり方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
- ・いろいろな形や色、触った感じなどを基に、自分のイメージをもつ。

(思考力、判断力、表現力等)

(3)・楽しく身の回りにある筒を並べたり積んだりしながら思い付いたことを試す活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする。

(学びに向かう力、人間性等)

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・身の回りにある筒を並べたり積んだりするときの感覚や行為を通して、いろいろな形や色、触った感じなどに気付いている。 ・身の回りにある筒に十分に慣れるとともに、並べたり積んだりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してついている。	・いろいろな形や色、触った感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、身の回りにある筒の形や色などを基に造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考えている。 ・いろいろな形や色などを基に、自分のイメージをもちながら、身の回りにある筒やつくったものなどの造形的な面白さや楽しさ、造形的な活動、つくり方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	・つくりだす喜びを味わい、楽しく身の回りにある筒を並べたり積んだりしながら思い付いたことを試す学習活動に取り組もうとしている。

5 指導と評価の計画（全2時間 本時2/2）

時間	ねらい・学習活動	評価の観点	評価方法等
1	・身の回りにある様々な筒を並べたり積んだりして、筒に十分慣れるとともに、どんなことができるか試してみる。	知 ◎ 技 ◎ 態 ○	・身の回りの筒の形や色を見たり、触ったりしながら、どんなふうに並べたり積んだりすることができそうか、様々に試している様子を観察し、記録に残す。 (観察・対話・撮影) ・筒を並べたり積んだりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫してつくっている様子を観察し、記録に残す。 (観察・対話・撮影) ・つくりだす喜びを味わい、様々な形や色の筒から思い付いたことを試す活動に取り組もうとしている様子を、活動全体を通して記録に残す。 (観察・対話・撮影)
2	・形や色に着目して並べたり積んだりするなど、思い付いた活動に取り組む。 ・友達の活動を見合い、つくりだしたものの面白さや楽しさ、活動の工夫を感じ取る。	思 ◎ (発想や構想) 思 ◎ (鑑賞) 態 ○	・形や色に着目しながら、様々に並べたり積んだりしている様子を観察し、記録に残す。 (観察・対話・撮影) ・自分や友達の活動について、並べ方や積み方などの面白さや楽しさを感じ取っている様子を観察し、記録に残す。 (観察・発言・撮影) ・つくりだす喜びを味わい、様々な形や色の筒から思い付いたことを試す活動に取り組もうとしている様子を、活動全体を通して記録に残す。 (観察・対話・撮影)

○題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす。

◎題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し、記録に残す。

6 本時

(1) 目標

様々な筒の形や色、触った感じなどを基に自分のイメージをもち、感覚や気持ちを生かしながら、創造的な活動を思い付いてつくる。

(2) 展開

時間	学 習 活 動	指導上の留意点 ○評価【観点】(評価方法)
10分	1 前時の活動を振り返り、本時のめあてを確認する。	・前時の活動について写真等で振り返らせ、意欲や見通しをもって活動に取り組むことができるようにする。
	もっとやってみたいことを みつけて やってみよう。	
25分	2 自分のイメージをもちながら、やってみたい活動に取り組む。	・児童の様々な活動を受け止め、意欲的に活動を進めていくことができるように声をかける。 ・面白そうなことや、誰もやっていないことを思い付いて活動している児童について称賛し、全体に紹介する。 ○並べたり積んだりするなど、筒の形や色に着目しながら、やってみたいことを思い付いている。 【思考・判断・表現】(観察・対話)
10分	3 本時の活動を振り返る。	・自分のやってみたことや、気に入った友達の作品を発表させ、児童の発言や気持ちを受け止めながら全体に広めていく。 ○自分たちの並べ方や積み方などの面白さや楽しさを感じ取り、形や色に対する自分の見方や感じ方を広げている。 【思考・判断・表現】(観察・対話・作品)

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	・形や色、触った感じなどに着目し、様々な並べ方や積み方を思い付き、どんどん試している。 (発想や構想) ・友達の作品や発言から、形や色や触った感じなどに対して共感や称賛をしている。 (鑑賞)
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	・教師と一緒に、筒を手にとったり並べたり積んだりし、どんなふうに活動するかを考える。 ・友達の活動の様子を一緒に見て回り、活動への見通しや意欲をもつことができるように声をかける。 (発想や構想) ・筒の並べ方や積み方などについて感じた面白さや楽しさ、発見したことなどを尋ね、対話する。 (鑑賞)

3・4学年 図画工作科学習指導案

3年6名 4年8名
指導者 T1 小原 樹
T2 徳永 裕一
授業場 児童玄関

1 題材名 光にかざして 見える世界

「絵に表す A 表現(1)イ、(2)イ、B 鑑賞(1)ア〔共通事項〕(1)ア、(1)イ」

2 題材設定の理由

本題材は、光を材料として加えることで、いつもの描画材を使った絵に表す活動とは異なった見え方や感じを味わい、材料や色の組合せ、色の明るさを工夫して、自分なりの新しい表現を楽しむ力を育むことをねらいとする。光が当たることで生まれる色の変化や、透けて見える様子、きらきらした感じなどを見付け、「光」を通す面白さに気付けるよう、材料との出会いを大切にしたい。児童が実際に外へ出て、材料に光を通して見える形や色の面白さを体感できる時間を十分にとることで、身の回りの光を通したときの不思議さや美しさに気付くことができると考える。また、材料や光と関わりながら、光を通した見え方を自分の目で確かめ、イメージを広げる中で、自分がいいなと感じる形や色の組み合わせから、表したいことが見付けられるようにしたい。この題材を通して、子どもたちが材料や色の組み合わせを試しながら工夫する力を育み、感じたことを形や色で表す楽しさを味わうことが期待できると考えた。

3・4年生の児童は、図画工作科の学習に意欲的に取り組み、楽しんで活動している様子が見られる。1学期のアンケート結果では、多くの児童が図画工作科を好きと回答している。6月に行った「ぬのでえがくと」では、布を触った感じ、形や色、模様を捉え、自分の感覚や行為を通して感じたことを生かして、絵に表す活動に取り組んでいた。初めて扱う「布」という材料の魅力に気付き、体を十分に働かせる活動が大きな喜びになっているように感じた。また、「布」との触れ合いを通して、自分の気付きを伝え合ったり、同じ布を使っても、切り方の違いや組合せの違いによって、感じ方が異なることを味わったりしている姿も見られた。このように、材料を組み合わせでできる形や色の感じを捉えて絵に表す経験を生かすことができることを考え、本題材を設定した。材料の組合せや重なりによって、色や形が変化することに気付き、そこに「光」が加わることで、より多様で豊かな見方や感じ方が生み出せることを期待したい。「光」も材料として扱う面白さを味わい、形や色を組み合わせたり重ねたりして生まれる感じを絵に表すことによって、自分の見方・感じ方が広げられるよう本題材を設定した。

指導に当たっては、和紙、お花紙、カラーセロハン、カラーフィルムなど光を通す様々な材料を用意しておく。基底材には、地域の公民館から廃材であるアクリル板いただき、適度な大きさに切り取り使用する。接着は、木工用接着剤を水で薄めたものを用意し、刷毛を使って貼り合わせられるようにする。「光」も材料に加えることを意識できるように、第1時ではそれぞれの材料に光を通すことで見える形や色、組合せから面白さを感じられるようにする。第2時では、試作用の小さいアクリル板を用意し、自分の表したいことを試しながらかみ付けられるようにする。試した作品は窓際に吊し、次時の活動の手立てとなるようにする。本時では、自分が表したいことに合わせて、アクリル板の大きさを選ぶ。光を意識して作品づくりができるように、活動の途中でも光を通して確かめることができるよう常時窓際に作品を吊せるようにし、光を意識した場作りを設定する。児童の様子を把握しながら、材料の形を重ねたりずらしたり、色を変えたりして試しながら、児童一人一人の感覚を広げられるように声かけをしたい。活動の途中でも友達と交流しながら、それぞれのよさや面白さを感じ取り、表現活動と鑑賞活動の往還ができるような学習の場を設定したい。

3 題材の目標

(1)・光を通す材料を組み合わせながら表すときの感覚や行為を通して、形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどが分かる。

・和紙などを適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具の経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。

(知識及び技能)

(2)・光を通す材料を組み合わせで感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考える。

・光を通す材料や自分たちの作品などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり、考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。

・形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどを基に、自分のイメージをもつ。

(思考力・判断力・表現力等)

(3)・進んで光を通す材料を組み合わせで思い付くことを絵に表す活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。

(学びに向かう力、人間性等)

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・光を通す材料を組み合わせながら表すときの感覚や行為を通して、形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどが分かっている。 ・和紙などを適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて、表し方を工夫している。	・形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどを基に、自分のイメージをもちながら、光を通す材料を組み合わせで感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付け、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。 ・形の感じ、色の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどを基に、自分のイメージをもちながら、光を通す材料や自分たちの作品などの造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	・つくりだす喜びを味わい進んで光を通す材料を組み合わせで思い付いたことを絵に表す学習活動に取り組もうとしている。

5 指導と評価の計画（全5時間 本時3／5）

時間	ねらい・学習活動	評価の観点	評価方法等
1	・いろいろな材料に光を通し、見える形や色の面白さを感じる。	知 ○	・光を通す材料を見たり触ったりして、形や色などの感じなどについて、伝え合っている様子を観察する。 (観察・対話・タブレット)
2 3 4	・材料の組合せを試しながら、表したいことを考える。 ・表したいことに合わせて、材料を組み合わせながら表現を深める。	思 ◎ (発想や構想) 技 ◎	・材料を組み合わせる生まれる形や色の感じ、組合せの感じなどを基に、表したいことを思い付き、どのように表すのか考えている様子を記録に残す。 (観察・対話・作品) ・表したいことに合わせて、材料や用具の使い方を工夫して表している様子を記録に残す。 (観察・対話・作品)
5	・作品をじっくり見て題名を付ける。 ・自分や友達作品を見合い、面白さや表し方の工夫を感じ取り、気付いたことや思ったことを話し合う。	思 ◎ (鑑賞) 知 ◎ 態 ◎	・自分や友達作品を見ながら、面白さや表し方の工夫を感じ取っている様子を記録に残す。 (観察・発言・ワークシート) ・自分や友達作品を見て、形や色の感じやそれらの組合せによる感じ、色の明るさなどについて感じ取っている様子を記録に残す。 (観察・ワークシート) ・光を通した材料の形や色を味わい、組み合わせを何度も確かめ、試しながら絵に表す活動に取り組もうとしている様子を記録に残す。 (観察・発言)

○題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し、指導に生かす。

◎題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し、記録に残す。

6 本時

(1) 目標

材料の組合せを試しながら表したいことを見付け、「光」も材料に加えることを意識し、工夫して絵に表す。

(2) 展開

時間	学 習 活 動	指導上の留意点 ○評価【観点】(評価方法)
5 分	1 本時のめあてを確認する。	・ 前時の作品を提示し、光を通す材料と光を生かしながら思い付いたことを確認し、本時のめあてをつかみ、活動の見通しをもつことができるようにする。
	材料に「光」も取り入れて、自分のイメージしたことを工夫して表そう。	
30 分	2 材料を組み合わせながら、自分の表したいことを考え、工夫して表す。	・ 色の組合せや重なりが意識できるよう、卓上が白い机を用意する。 ・ 自分の思いを表現している児童を承認したり、賞賛したりすることで、形や色への気付きや価値を自覚することができるようにする。 ・ 活動が止まっている児童に対しては、友達の活動を紹介したり、友達の作品を見ることを促したり、材料の選び方を演示したりして、自分なりのイメージがもてるように支援する。 ○材料の形や色の感じから表したいことを思い付き、どのように表すのかを考えている。 【思考・判断・表現（発想や構想）】 （観察・作品・発言）
10 分	3 本時の学習を振り返り、次時の学習の見通しをもつ。	・ 友達と交流し、よさを伝え合う場面を設定したりすることで、自分自身の活動に自分なりの意味付けや価値付けができるようにする。

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	・ 材料を組み合わせたり、光を通したりする行為を試す中で、新しい形や色を思い付き、自分のイメージを膨らませながら、工夫して表現している。
「おおむね満足できる」状況を実現できるための具体的な指導	・ 児童とともに、友達の作品を鑑賞したり一緒に材料を選んだりして、イメージを膨らませながら活動することができるようにする。

第5・6学年 図画工作科学学習指導案

5年8名 6年7名

指導者 T1 宮本 拓海

T2 吉田 紘子

授業場 図工室

1 題材名 「こんなタワーがあっタワー」

「立体に表す A表現(1)イ、(2)イ、B鑑賞(1)ア [共通事項](1)ア、(1)イ」

2 題材設定の理由

本題材は、針金を様々な形に変えながら、自分の表したいものを発想し、立体として立ち上がらせ、表し方を工夫していく力を育てることをねらいとする。針金は簡単に曲げたり、巻いたり、切断したりして、何度も形を作り直すことができる材料である。一方で、木や紙などの他の材料と比べテープや接着剤などによる接着が難しく、立体に表すにはうまくつなぎ合わせる方法を身に付ける必要がある。そこで、まずは児童がしっかりと針金に触れる時間を確保し、つなぎ合わせたり様々な形に変えたりする基本的な方法を体験することで、針金の材料としての特徴を理解させたい。そうすることで児童は自分のイメージする形を表現しやすくなると考える。単一の材料でも、特徴を生かして工夫することで自分の思いを表現できる喜びを味わうとともに、友達の活動や作品を見て、さらに造形的なよさや発想の面白さを感じられると考えこの題材を設定した。

5・6年生の児童は、図工の授業に意欲的に取り組み、自分らしさを発揮して製作を行う様子が見られる。1学期に行ったアンケートの結果から、特に工作することや粘土を使って表現することが好きな児童が多く、その理由として「好きなものをつくることができるから」「工夫してつくることが好きだから」などが挙げられた。立体に表す題材「ようこそ! だんボール島」では、「だんボール島」に置きたいものを考えて、様々な方法で段ボールの形を変え、それらを組み合わせて作品をつくった。「窓から海が見えるように置きたい」など、自分の思いをもって製作に取り組んだり、「筒にした段ボールを差し込んで柱にしよう」「屋根には段ボールの波が見えている面を使おう」といったように、段ボールの特徴を生かして形を変えることを試しながら、進んで活動に取り組んだりしていた。また、友達の作品に対して「いろんな技を使った遊具があって楽しそう」など表現の工夫や発想の面白さを感じている姿も見られた。しかし、身に付けた段ボールの形の変え方と自分の表したいものをうまくつなげられず、活動が進みにくい児童もいた。そこで今回は針金の特徴を生かしてその形を様々な形に変えながら、自分がよいと思う立つ形を工夫してつくる活動を通して、自分の見方や感じ方を深める題材を選んだ。

指導に当たっては、まず針金の形を変える経験を十分に積ませることで、針金の立たせ方やつくることのできるものへのイメージの幅を広げられるようにする。活動の中で、針金でできた形がよく見える黒い背景を提示し、そこに置くタワーをつくることを伝えることで、児童の活動への意欲を高められるようにしたい。また、針金の先やペンチなど安全に注意が必要な材料や用具を適切に扱って活動できるようにする。その経験を基に、軟らかく簡単に曲げたり巻いたりできる針金の特徴を生かして、自分が表したいものをつくっていく。活動の中では児童が考えた作例をいつでも見られるようにしたり、教師とのやりとりの中で提示された作例を参考にしたりすることで、自分のイメージに合った形の変え方

を選べるように支援を行う。また、友達の活動を見たり、対話したりするように声をかけることで、友達の活動の造形的なよさや発想の面白さを感じ取り、よりよい表現につなげられるようにしたい。

3 題材の目標

(1)・針金の形を変えながら、自分がよさを感じる立つ形を見付けていくときの感覚や行為を通して、動き、バランスなどを理解する。

・表現方法に応じて太さの違う針金やペンチを活用するとともに、前学年までの材料や用具についての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫する。

(知識及び技能)

(2)・針金の形を変えながら感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、形や材料の特徴、構成のよさなどの感じなどを考えながら、どのように主題を表すかについて考える。

・自分たちの活動の造形的なよさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める。

・動き、バランスなどを基に、自分のイメージをもつ。

(思考力、判断力、表現力等)

(3)・主体的に針金の形を変えながら、立ち上がる形をつくる活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形にかかわり楽しく豊かに生活しようとする。

(学びに向かう力、人間性等)

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 針金の形を変えながら、自分がよさを感じる立つ形を見付けていくときの感覚や行為を通して、動きやバランスを理解している。 - 表現方法に応じて太さの違う針金やペンチを活用するとともに、材料や用具についての経験や技能を総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせたりするなどして、表したいことに合わせて表し方を工夫している。	- 動きやバランスを基に、自分のイメージをもちながら、針金の形を変えながら感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、形や材料の特徴、構成のよさなどの感じなどを考えながら、どのように主題を表すかについて考えている。 - 動き、バランスなどを基に、自分のイメージをもちながら、自分たちの活動の造形的なよさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深めている。	つくりだす喜びを味わい主体的に針金の形を変えながら、立ち上がる形をつくる学習活動に取り組もうとしている。

5 指導と評価の計画（全6時間 本時4/6）

時間	ねらい・学習活動	評価の観点	評価方法等
1	・針金の形を変え、針金を加工する方法をいろいろ試し、材料のよさや面白さを見つける。	知 ○	・針金の形を変える方法を様々に試している様子を観察し、記録に残す。 (観察・対話・撮影)
2	・針金を曲げたり、巻いたり、つなげたり太さを変えたりして、針金の特徴を生かした立たせ方を考える。	思 ○ 態 ○	・針金を様々な形に変えたり、太さによる違いを感じたりしながら、自分がよいと思う針金の立たせ方を見つけられているか観察し、記録に残す。 (観察・対話・撮影) ・つくりだす喜びを味わい主体的に針金の形を変えながら、立ち上がる形をつくる学習活動に取り組もうとしている様子を、活動全体を通して記録に残す。 (観察・対話・作品)
3 4 5	・針金の形を変え、そのよさを生かしたり組み合わせたりして、つくりたいものに合った表し方を考える。 ・全体のバランスを考えながら、つくりたい形が自立するようにつくる。	思 ◎ (発想や構想) 知 ◎ 技 ○	・自分のイメージをもちながら、表したいことを見付け、形や材料の特徴、構成のよさなどを考えながら活動している様子を記録する。 (観察・対話・活動) ・針金の形を変えながら、自分がよさを感じる立つ形を見付けていくときの感覚や行為を通して、動きやバランスを意識しながらつくっている様子を記録する。 (観察・対話・作品) ・表したいことに合わせて針金やペンチを活用し、表し方を工夫しながらつくっている様子を記録する。 (観察・対話・活動)
6	・お互いの作品を鑑賞し合い、表し方の工夫を見付けたり、作品のよさを味わったりする。	思 ◎ (鑑賞)	・自分や友達の仕事について、造形的なよさ、表現の意図や特徴、表し方の変化などを感じ取り、自分の見方や感じ方を深めている様子を記録に残す。 (観察・発言・作品・タブレット)

○題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす。

◎題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し、記録に残す。

6 本時

(1) 目標

自分のイメージするタワーに合った針金の曲げ方や巻き方、組み合わせ方を考え、自分なりのタワーを工夫してつくる。

(2) 展開

時間	学 習 活 動	指導上の留意点 ○評価【観点】(評価方法)
5 分	1 本時の学習への意欲をもち、めあてを確認する。	・前時までの学習を振り返り、本時の活動の見通しをもつことができるようにする。
35 分	自分のイメージに合わせて針金の形を変え、自分なりのタワーを工夫してつくろう。	
	2 自分のイメージに合わせて、針金の形の変え方を考え、自分の表したいものを工夫してつくる。	・第1次で見つけた針金の曲げ方や巻き方、立たせ方の作例や実際に教師が形を変えた針金を見せることで、自分のイメージに合った表現の工夫ができるようにする。 ・できた形を称賛したり、これからどうなるのかを聞いたりすることで、自分の見方や感じ方を広げることができるようにする。 ○針金の形を変えてできる形のよさを生かして組み合わせ方を考え、自分のイメージをもって活動している。 【思考・判断・表現（発想や構想）】 （観察・対話・作品）
5 分	3 本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	・振り返りを通して、本時の目標に対する達成状況を確認し、次時の活動に生かせるようにする。

(3) 評価及び指導の例

【思考・判断・表現（発想や構想）】

「十分満足できる」と判断される状況	・自分の表したいものに合わせて針金の形を変え、自分のイメージに合うように試行錯誤しながら、工夫して表現している。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	・教師と一緒に友達の活動を見て回り、活動への見通しをもてるようにする。 ・実際に教師が針金の形を変えて見せることで、自分の表現したいものに合った形の変え方を選べるようにする。